

藤田観光株式会社
2023年12月期決算および中期経営計画説明会 質疑応答要旨
2024年2月14日(水)実施

【2024年業績予想について】

- Q、 前年比 41 億円増収に対し 6 億円減益の計画だが、コストの増加はどの程度見込んでいるのか。
- A、 変動費率は前年比 1～2%程度、固定費は 30 億円ほどの増加を見込んでいる。固定費については 30 億円のうち人件費 10 億円、水道光熱費 4～5 億円程度の増加を見込んでいる。
- Q、 業績予想の前提となる営業指標(決算説明資料 P.14)について、2023 年の実績を踏まえると ADR(客室単価)はもう少し上昇余地があるのではないかと。
- A、 2023 年の ADR 上昇はリベンジ消費による一時的な需要増の影響が含まれていると認識しており、2024 年はその分の需要減を織り込んでいるが、足元では堅調に推移しているため、インバウンド需要獲得等による上昇の余地はあると考えている。

【中期経営計画 新規出店について】

- Q、 WHG 事業の新規出店計画について、どのような想定か。
- A、 既存ブランドであるワシントンホテルやホテルグレイスリーを中心に検討していく。2028 年までにチェーン客室総数 12,000 室を目指し、賃貸借や資産取得、フランチャイズなど多様な形態により 8 店舗程度の出店を想定している。
- Q、 箱根ホテル小涌園の増室とあるが規模や時間軸の想定は。
- A、 50 室程度の増室を計画している。通年稼働の状況も見たうえで、本中期経営計画期間内に利益貢献できるようなスケジュールで進めていきたい。
- Q、 箱根小涌園エリア内にはまだ開発余地があると思うが、高価格帯の新規出店ではなく箱根ホテル小涌園の価格帯がよいという考えか。
- A、 高価格帯での競争が激化している状況も踏まえ、箱根ホテル小涌園の価格帯(一泊二食付で 20,000 円程度)を設定し、開発に至った。開業後目論見通りという手応えもある。遊休地の開発については、箱根ホテル小涌園の増室を優先しながらも並行して検討を続けていく。

以上